

1. < 施策の概要 >

基本理念	次世代を担う豊かな心と創造力を育む教育環境のまちづくり	統括課	教育部 生涯学習課
基本方針	生涯学習		
施策名	文化振興	関連課	
方針・目標等	◆文化財の保存と活用や、文化芸術の振興を図ることにより、住民生活の文化的向上と地域文化の発展に役立てる。		
実施内容	◆文化財の調査・研究。◆文化財の保存と、それに基づく活用。◆精華町文化協会など、住民の自主的な文化活動の推進。◆文化振興の担い手となる人材の発掘と支援。		

2. < 指標の設定 >

	重点	指標名	単位	他団体比較		算式・引用等			
				団体名	実績/年度				
①	○	文化協会加盟人数	名			教育委員会資料			
②		文化協会加盟サークル数	団体			教育委員会資料			
③									
④									
⑤									
				H19(実績)	H20(実績)	H21(実績)	H22(実績)	H23(試算)	H24(試算)
①		目標		-	-	-	-	800	800
		実績		846	700	667	694		
②		目標		-	-	-	-	50	50
		実績		53	53	51	46		
③		目標							
		実績							
④		目標							
		実績							
⑤		目標							
		実績							

3-1. < 指標から読み取れる成果と課題 >

・精華町文化協会の「せいか文化フェスティバル」を始めとする各種発表会や展示会など諸事業は、文化協会加盟サークルの発表の場であるとともに、文化の普及啓発という目的をもって開催されており、これらの事業をきっかけにサークルに加入される方がいるなど、文化活動の裾野の拡大につながっている。

・しかし、文化協会加盟人数や文化協会加盟サークル数は、構成員の高齢化などの要因から次第に減少してきており、増加には転じていない。

3-2. < 住民ニーズ等を踏まえた課題・他自治体の取り組みから学べる点 >

・精華町文化協会が自主的に行っている「せいか文化フェスティバル」をはじめとする各種発表会や展示会などの諸事業をさらに充実させるとともに、新たなサークルの結成や会員の増員を支援していくための方策を検討する必要がある。

4-1. <施策を構成する事業>

	重点	部 門 / 事業名 / 種別 / 決算書説明頁	事業費(人件費含む) / 事業費のみ / 事業費一財 <単位:千円>					
			H19(実績)	H20(実績)	H21(実績)	H22(実績)	H23(予算)	H24(試算)
1	○	生涯学習課	-	-	7,213	6,726	6,726	6,726
		社会教育活動助成事業	2,562	2,562	2,562	2,560	2,560	2,560
		一般事業 251	-	-	2,562	2,560	2,560	2,560
2	○	生涯学習課	-	-	-	14,144	14,544	-
		国民文化祭準備経費	-	-	-	3,397	3,797	-
		一般事業 253	-	-	-	1,800	0	-
3		生涯学習課	-	-	905	889	986	986
		文化振興事業	87	25	85	113	210	210
		一般事業 251	-	-	85	113	210	210
4		生涯学習課	-	-	5,427	5,118	6,053	6,074
		文化財保護事業	3,940	4,188	4,202	3,744	4,679	4,700
		一般事業 257	-	-	4,202	3,744	4,679	4,700
5		生涯学習課	-	-	5,395	5,998	12,095	12,095
		町内遺跡発掘調査	38	1,851	3,768	4,903	11,000	11,000
		一般事業 259	-	-	0	0	3,000	3,000
6		生涯学習課	-	-	-	1,431	-	-
		町内遺跡発掘調査(繰越明許)	-	-	-	975	-	-
		一般事業 259	-	-	-	0	-	-
7								
8								
9								
10								

4-2. <施策を構成する事業の成果と課題>

・「第26回国民文化祭・京都2011」の1年前イベントとして、「少年少女合唱フェスティバル・プレイベント」を開催した。国民文化祭(本番)に向けての良い経験となり、また、開催気運の醸成につながった。

・「精華町民文化賞」の授与、並びに「精華町文化・スポーツ振興奨励金」の交付により、それぞれの活動に対する支援、激励となるなど効果があった。

・指定文化財や、古文書・歴史資料、民俗文化財、埋蔵文化財などの文化財については、保存のための必要な措置を講じ、また、調査・研究を進めることにより、その保存と活用が図れた。しかし、対象が多岐にわたり、それぞれに対処の仕方や作業内容が異なるため、これに関わる人員や時間の不足は否めない。

5. <施策の今後の方向性>

・平成23年度の「第26回国民文化祭・京都2011」の本町での開催事業である「少年少女合唱フェスティバル」の成功に向け取り組みを進めるとともに、国民文化祭の開催を契機に、地域住民や関係団体と連携した文化の振興を目指していく。

・文化の振興を図るため、精華町文化協会の活動に対する支援を継続して行っていくが、将来的には、自立した活動が行えるよう、組織の強化を図っていく。

・文化財の保護については、住民の文化的向上を支える資財として、引き続き、地道に資料の整理、調査・研究を進め、確実な保存とそれに基づく活用を図っていく。